生産性向上プロジェクトＡ会議を開催！

［愛知所］ 12月22日に生産性向上プロジェクトA会議を愛知森林管理事務所において、民有林、名古屋大学及び国有林関係者約40名が参加し開催しました。

このA（改善）会議は、実行結果及び日報等の最終分析結果等から取組内容の検証を行い、後の課題や改善策等を検討することを目的としています。

実行結果については、請負事業体の新城森林組合から報告があり、工夫した点として、①森林作業道の作設に当たって、林内運搬車の能力が最大限発揮できるように、またスイングヤーダで最も効率の良い集材スパン（30～50m）を確保するため、等高線沿いの線形とした。②集材時のオートチョーカーや繊維ロープを導入し作業効率の向上を図ったこと。また、現場作業班全員が工程管理をイメージしながら作業の段取りを考えるようになったことにより、生産性は目標の4.64を大きく上回る8.18（m3／人日）となったとの報告がありました。

しかしその結果、山土場に集積したチップ材の運搬がスムーズにいかず、山土場までの林内運搬が滞るというボトルネックがあったことも報告されました。

Ａ会議で発表の様子

日報分析については、名古屋大学から報告があり、単木材積と平均集材距離から集材に係る生産性を推定したものと、実際の日報集計による生産性を比較したところ、今回の事業は標準的な生産性をあげることができたとの報告がありました。

また、国土防災技術㈱から「ドローンの空撮成果の報告」として当該事業地で実施した空撮写真から、単木位置や樹種・本数等の森林情報や作業道の線形や作業の進捗状況などの作業管理に活用できる基礎データの収集ができたこと。今後は、ドローンで取得したデータを解析することで単木毎の材積を推定する旨の報告がありました。

意見交換後、名古屋大学助教授の近藤稔先生から「一つの工程の遅れが全体の生産性に影響することからボトルネックの早期発見と対処が大切である。ドローンによる森林情報や作業管理情報を生産性向上に反映するなど林業へのICT技術の展開を期待する」旨の講評がありました。

今年で三年目の取組となった生産性向上実現プロジェクトですが、今後とも国有林のフィールドを活用し、有効なノウハウについて民有林へ水平展開を進めていくとともに、高い生産性を有する林業事業体の育成を図るなどの役目を担っていきたいと考えています。

林野庁　中部森林管理局
〒380-8575　長野県長野市大字栗田 715 番地 5
TEL　050-3160-6508

国民の森林・国有林